

263) 主役を演<sup>や</sup>らせて

水辺に投げた小石の波紋  
向こう岸までひろがってゆく  
アネモネ色の夕焼け空が  
みずも  
水面に揺れてもとの静けさ

きっとあなたもこの夕映えを  
電車の窓から見ているでしょう  
昨夜の言葉かみしめながら  
影絵のような街になるまで

雲が行くのを見送ってから  
街に戻ればビルの谷間に  
まあるい月がぼんやりのぞく  
わたしの心慰めるよに

脇役だってよかったけれど  
プリマドンナを演じたかった  
あなたと愛を語り合いたい  
一度ぐらいは主役になって